愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	発達心理学		
担当者(Instructors)	松尾 香弥子	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本授業では現在、とくに注目を集めている二つの事項、発達障害と子ども虐待を中心に取り上げて、その神経的な仕組みや対処法・治療法を視野に入れた講義を行う。最近のキーワードのひとつは「エピジェネティクス」であり、これは遺伝による表現型が環境の影響によって変わりうることを示す概念である。私たちができることは、思っているよりも多いのに違いない。これらについて共に考えを深め合うことを目標に講義する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	１回の授業中に数回程度、無記名アンケートを行って、結果を即時に提示するインタラクティブな授業を行うため、可能な限り、インターネットにアクセスできるスマートフォン等を持参されたい（無理のない範囲とする）。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス：遺伝と環境	ヒトは遺伝すなわちもって生まれたものと、環境すなわち胎内をも含めた発生後の様々な経験との相互作用によって成り立っている。	□
第2回	発達障害：定型発達との連続性	発達障害のなりたちについて概要を述べ、いわゆる定型発達とは連続的であり、さらには発達障害のタイプ間も連続的であることを説明する。	□
第3回	自閉スペクトラム症（ASD）	自閉スペクトラム症について、その特徴である感覚過敏やこだわり、コミュニケーション障害の実際について解説する。	□
第4回	注意欠如・多動症（ADHD）	注意欠如・多動症について、その特徴である不注意、多動、衝動性の実際について概要を説明する。	□
第5回	学習障害（LD）	読み書きや計算などの学習障害のさまざまな表れ方、および協調運動障害について学び、それらに派生する問題について概要を説明する。	□
第6回	愛着障害	養育者との愛着形成に問題があると、子どもの心身および行動にさまざまな問題が発生し、それらは一見、発達障害の症状に類似する。	□
第7回	小児期逆境体験	小児期の逆境的ストレス体験は成人後にまで影響を及ぼし、精神疾患のみならず身体疾患への罹患率をも上げることを、その治療方法をも含めて解説する。	□
第8回	脳に関する知見：発達障害	発達障害に関する脳科学的な知見について概要を説明する。	□
第9回	脳に関する知見：虐待	子ども虐待により、成人後にそれぞれの虐待の種類に応じた脳の変性が見いだされる。	□
第10回	遺伝子研究からの知見：環境の影響？	エピジェネティクスにより、同じ遺伝子型でもストレスの有無によって表現型が変わりうる。	□
第11回	疫学研究からの知見：親の年齢が関与？	大勢の人において年齢性別などのさまざまな要因・属性を調べて発達障害との関連を調べた疫学研究からの知見を概説する。	□
第12回	栄養学からの知見：小麦粉はとらない方がいい？	環境要因のひとつとしての栄養摂取と発達との関連について概説する。	□
第13回	発達段階理論	ヒトの心身の発達はいくつかの段階に分けることができる。	□
第14回	生涯発達	発達は誕生から死に至るまで継続している	□
第15回	まとめ：個の尊重と共生	本講義をふりかえり、まとめを行う。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

授業中に随時、関連する文献・ウェブサイトや動画等を紹介するので、それらを参照し、授業内容について理解を深める（４時間）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題は翌週以降にまとめてフィードバックし、内容について、解説とともに解答例を提示する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019人間健康DP1	心身の発達に関する専門的知識と実践的能力を身につけている。
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	心身の発達支援における問題意識を持ち解決方策を探求できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
70%			20%	10%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業中に指示する内容についてレポート課題を実施する。（回数未定）

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	水野里恵著　『公認心理師ベーシック講座 発達心理学（KS心理学専門書)』　講談社	978-4065221549
2	高橋一公（著，編集），中川佳子（著，編集）　『発達心理学15講』　北大路書房	978-4762830570
3		
4		
5		